

物的環境に関連するインシデント・アクシデント事例

事例番号683

発生場所	エレベーター	精神・意識障害の有無	リスク
発生場所（その他）		無	
関連したもの	点滴スタンド、エレベーター	発生内容の分類	A. 患者による使い方・置き方のリスク
		挟み込み・ドレーン・チューブ	

発生内容	エレベーターのドアにチューブが挟まり千切れる
------	------------------------

概要	PTCDチューブを挿入している患者。入院は1週間目だが、これまでに何度も入院歴がありPTCDチューブも長期間挿入していた。ADLは自立しており、これまでドレーン管理も問題なかった。元々病室にいる事は少なく、よく散歩に出かけており、今回エレベーターから出ようとした所で、PTCDチューブに接続しているシスコパックがエレベーターの閉まるドアに挟まれてしまった。PTCDチューブが引っ張られたため、両手で押さえるとチューブの途中から千切れてしまい、シスコパックはエレベーターの隙間から下に落ちてしまった。チューブ挿入部は問題なく、ナドもそのままであったため他のチューブに繋げ開放した。腹痛なく主治医に報告し様子観察になった。
----	---

要因	歩行時にシスコパックをズボンのポケットに入れ、点滴スタンドを手で押していた。ポケットからシスコパックが落ち、引きずっていたが本人は気が付いていなかった。そのまま、エレベーターに乗りドアが閉まった時にシスコパックが挟まった。エレベーターのドアセンサーは、磁性体であったため反応せず閉まってしまった。
----	--

対策	チューブ・ドレーン管理の注意点を患者さん自身にも説明し、訪室時や見かけた時に管理が出来ているか声かけを行っている。
----	---

参照	
----	--